

みなさん、こんにちは。いかがお過ごしでしょうか？

さて、今回は住まいの断熱のお話。冷暖房効率をアップさせるヒントをお届けします。

【こんなに多い!窓から逃げる空気、入る熱気】

一般的に、住まいの断熱はマンションなら暑いコンクリート壁が、戸建てなら壁内に入れられた断熱材がその役目を果たしています。

しかし窓はどうでしょう。ガラス一枚で外と通じている窓は、換気の役目を果たすと同時に熱の出入り口にもなっているのです。

では一体どのくらいの熱が窓から出入りしているかというと、なんと、冬の暖房時の熱の流出割合は、48%。夏の昼の冷房時における熱の流入割合に至っては71%にもなるのです。

これではいくら床や壁にしっかりと断熱材を入れていても、またお部屋の中をいくら冷暖房しても、窓対策をしっかりとしていなければ、エネルギーは大きく損失されてしまうのです。



【冬と夏。遮熱と断熱は工夫して】

快適に過ごすだけでなく、電気代や燃料代の省エネにつながるポイントをご紹介します。

●冬はカーテン等を上手に使う

冬は窓辺で冷やされた空気が冷たい風となって室内の下層に流れ込む「コールドドラフト現象」が起こります。これにより、実際の室温以上に寒く感じてしまうのです。

カーテンを断熱性の高いものや厚手のものに変え、床すれすれまで長さをとると冷気の進入を防ぐことができます。それに加え、裏地を付けたリドレープを大きくとるなど、空気層を増やすようにすると断熱効果はさらに高まります。また、昼間の日射しをたっぷりと窓から取り入れ、日が落ちる前に家の中の暖かさを逃さないように、カーテンは早めに閉めましょう。

●夏は外側の遮熱対策を

カーテンやブラインドなどの一般的な遮熱対策をしても、家そのものに降り注ぐ日光の量は変わりません。

窓の外側から遮熱を行うことで、室内の遮熱対策も生きてきます。

効果的なのは、昔からあるよしずやすだれ。窓に密接させずに、窓の前(バルコニーや縁側)に日陰を作るように掛けるとよいでしょう。

また、最近の流行は緑のカーテン。窓際にツル性の植物を植えて日射しを遮ります。ゴーヤなど、葉が大きくて成長の早い植物が効果的です。実もつくので収穫も夏中楽しめ、何より植物のグリーンは見た目にも涼しげです。



【窓エコリフォームでもっと暮らしやすく】

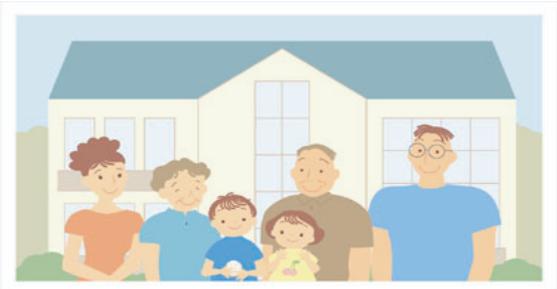
工夫次第で快適に過ごせるポイントはつかんでいただけたと思いますが、築年数がある程度経過している場合、省エネ基準が施工当時のままなので対策にはやはり限界があります。さらなる暮らしやすさや省エネを見据えた場合、窓のリフォームも一案と言えるでしょう。窓のリフォームには、窓そのものを断熱窓に替えたり、ガラスのみペアガラスに交換する方法等があります。

高断熱窓にまるごと交換する方法はかなり有効ですが、工期が長くなり費用もかさみます。

最近全国的に浸透してきているのは「窓の内側にもう1枚窓を取り付けて二重窓にする」方法です。

内側に取り付ける窓は樹脂製なので、従来のアルミサッシに比べ熱伝導率はわずか1/4程度。高断熱窓にまるごと交換した場合と同等の熱エネルギー削減率を誇ります。

また二重窓は結露防止や防音・遮音においても大変評価が高く、工事も1日で済み費用も経済的です。



TOYAスマイル倶楽部事務局
今治市玉川町中村甲677-7
有限会社十弥工務店内
TEL (0898)36-8182
FAX (0898)36-8183
E-mail : toya-info@toya.co.jp